



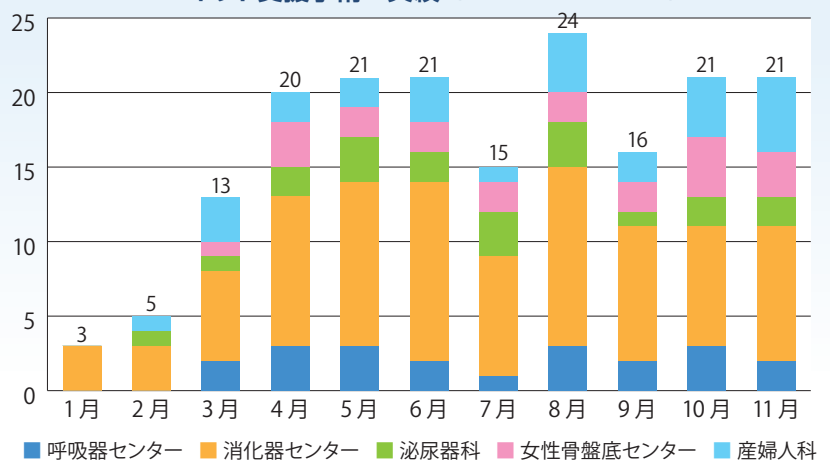
- 最新事情 看護部(中面)
- 北部病院からのお知らせ(裏面)

北部病院における最新型Robot支援手術 (da Vinci Xi)

昨年1月より導入いたしました最新型手術支援ロボット「ダビンチXi」による手術は、適応手術も順次拡大され、消化器外科、産婦人科、泌尿器科、呼吸器外科、女性骨盤底センターにおいて実施されています。

導入当初の1月から11月末までにすでに180件のロボット手術が安全に実施されております。引き続き、患者さんが最適な治療を受けることができるよう努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

● ロボット支援手術 実績 (2023年1月～11月)



産婦人科におけるロボット支援手術

2023年1月のダビンチXi導入に伴い、当科でもロボット支援下手術を積極的に導入しております。導入当初は月に2-3日程度、1日1件でしたが、現在は土曜日にロボットを運用したり、1日2件手術を行うなどし、着実に手術件数を増やしております。

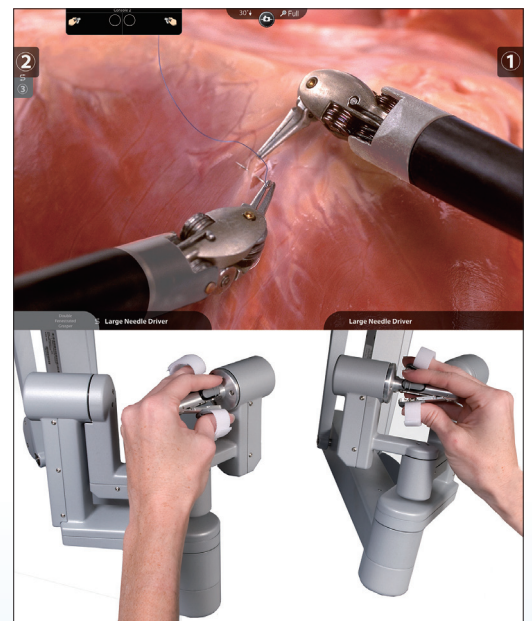
ダビンチ手術は患者さん、術者双方にとって優しい手術です。

当院で行っている子宮全摘術では、腹腔鏡下手術に比べより自由度の高い鉗子を用い、5箇所1cm程度の傷で手術を行います。手術時間は2-3時間程度で、出血量も腹腔鏡下手術に比べ少ない傾向にあります。術後1日目には歩行していただき、術後4日目に退院となります。術後の疼痛コントロールも良好であり、患者さんへの侵襲も腹腔鏡下手術と同等に少ない印象です。

術者にとっては3Dの高精細な視野の元、直感的操作で動かせる鉗子を用い、着座で行えるため、身体への負担も軽減されます。

ロボット手術は触覚がないというデメリットもありますが、3Dの高精細な視野、より緻密な操作が可能な鉗子といった、大きなメリットがあります。

現在のところ幸い大きな合併症なく、安全に導入できています。今後も安全性には充分配慮した上、患者さんに満足していただけるロボット支援下手術を提供できるよう心がけていく所存です。これからもよろしくお願いいたします。

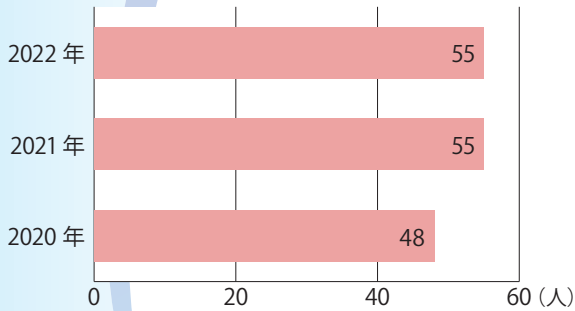


(産婦人科 診療科長・教授 市塚清健、同講師 宮上哲)

看護部 最新事情

私たち看護部は「看護師・助産師」・「看護補助者」からなる看護チームを組織しています。看護チームとは、「看護師・助産師」と「看護補助者」が同じ目的に向かって協力することでレベルの高いケアを行う集団です。2023年11月現在、看護師634名・助産師46名(図1・2)、看護補助者112名が業務に当たっています。

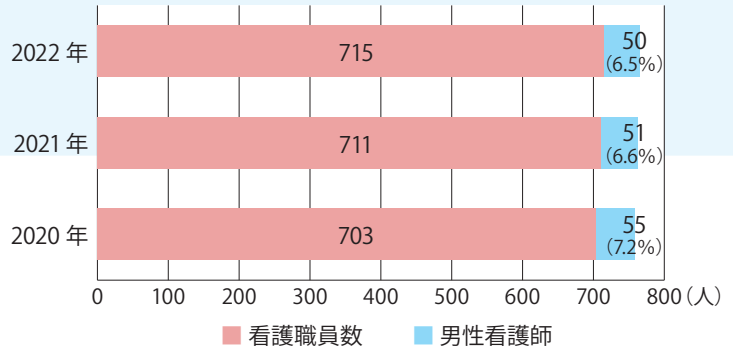
● 図2 助産師数 (2020～2022年度)



また、4領域の専門看護師4名、7領域の認定看護師11名が在籍(表1)しています。専門看護師・認定看護師は院内の組織横断的活動とともに、地域と連携した活動も始めています。

私たち看護チームに求められていることは多岐にわたりますが、その中で現在の取り組みを一部ご紹介します。

● 図1 看護職員数・男性看護師数と割合 (2020～2022年度)



● 表1 専門看護師・認定看護師数

専門看護師			
がん看護	1名	精神看護	1名
老人看護	1名	急性・重症患者看護	1名

認定看護師			
感染管理	2名	新生児集中ケア	2名
皮膚・排泄ケア	3名	小児救急看護	1名
がん化学療法看護	1名	摂食・嚥下障害看護	1名
認知症看護	1名		

■ 健やかに生まれ育つことへの支援

「健やかに生まれ育つことへの支援が受けられる」という地域の期待に対し、今年度は、周産期の医療やサービスの在り方の改善に取り組んでいます。多くの妊産婦さんの声に基づき、「情報発信の強化」・「付帯サービスの強化」・「医療体制の強化」を図ります。

「情報発信の強化」では、マタニティアプリを活用し情報発信サービス等を検討しています。「付帯サービス」の強化では、食事やアメニティなどの見直しを始めているところです。

特に力を入れて取り組むこととして「医療体制の強化」をあげています。当院には、アドバンス助産師が13名在籍しています。アドバンス助産師とは、CLOCMiP(助産実践能力習熟段階)^{*1}レベルⅢの認証を受けている助産師であり、自律して助産ケアを提供できる助産師とされています。今後、アドバンス助産師の活動を段階的に拡大し、妊娠期の検診や分娩業務を自律して行うことで、妊産婦に寄り添い安心していただける周産期医療の提供を目指しています。産後も、母乳や育児の相談、女性のいわゆる“おしもの不具合”などの相談、



周産期センター アドバンス助産師

産後クラスによるママ友づくりの機会など、地域のニーズを把握し活動していきます。

また、高度化する周産期医療や多様な女性への対応を必要とする現在にあっては、母性看護学の対象であった周産期を含め、女性の生涯にわたる健康を支援することが求められています。女性の一生にわたる健康という視点から、心身社会的な健康の側面を統合的に捉え、女性の体験および意思を尊重した個別的なケアの提供を今後の課題としています。

※1 CLoCMiPレベルⅢ認証制度とは、助産師の助産実践能力が一定の水準（助産実践能力習熟段階レベルⅢ）に達していることを評価し認証する仕組み（公益社団法人日本看護協会）。

■ 退院後の生活をイメージした退院支援

2040年を展望し、地域の人々の暮らしを支える看護が求められています。特に「住み慣れた地域に戻ることの支援」・「疾病・障害とともに暮らすことへの支援」を展開することは、これからの看護師に期待される大きな役割です。これまで私たちは、急性期にある患者さん・ご家族の苦痛を取り除き無事に退院できることを目標に取り組んでいました。しかし、約2割の患者さん・ご家族は、看護師からの退院後の生活に関する支援が少ないと感じていることを、アンケート結果より知りました。

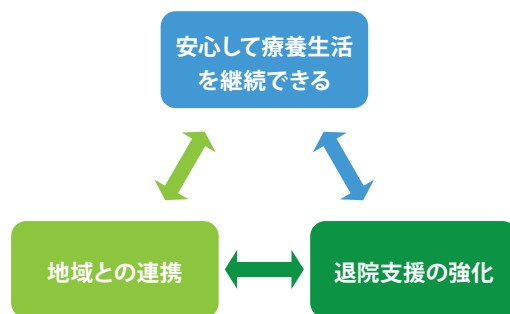
2022年患者満足度調査結果

Q：「あなたやご家族の要望を聞き、不安がなく退院できるような支援しましたか」 ➡ 78.9%

Q：「退院後の生活についての説明は十分理解できましたか」 ➡ 79.9%

そこで、今年度は、「患者さんが安心・納得して退院し、早期に住み慣れた地域で療養や生活を継続できるように支援する」という目標を立案しました。入院中の生活にとらわれずに、患者さんが退院した後の生活をイメージして、入院中からの在宅療養支援を強化する取り組みです。

具体的には、①入院前の患者さんの生活や身体機能を知ること、②入院による生活・身体機能の変化を確認すること、③退院後の具体的な生活イメージを明確化する事です。特に③の退院後の生活について、患者さんやその家族、地域の関連する医療施設との情報の確認や、申し送りが不十分であったと振り返りました。地域の医療機関等からも多くのご指摘を受けている現状があります。これら一つ一つの問題を解決し、地域住民や医療機関の皆様から信頼していただける看護を目指しています。



■ 認知症ケアサポートチームができました

北部病院では、高齢化に伴う認知症有病率の増加が見込まれている背景から、認知症の人が尊厳を保持しつつ希望をもって治療に臨めるように認知症施策を総合的かつ、計画的に推進するため、2023年10月より認知症ケアサポートチーム（Dementia care Support Team,DST）を新設しました。

チームは、医師・看護師（精神看護専門看護師・老人看護専門看護師・認知症看護認定看護師）・精神保健福祉士・理学療法士・作業療法士・薬剤師・事務職員で構成しています。

認知症による行動・心理症状や意思疎通の困難さが見られ、身体疾患の治療への影響が見込まれる患者さんに対し、病棟の看護師等や専門知識を有した多職種が適切に対応することで、認知症症状の悪化を予防し、身体疾患の治療を円滑に受けられることを目的としています。

私たちの仕事は一人ではこなせません。患者さんの治療や療養生活、退院後の生活が少しでも豊かになるよう、それぞれの役割や資格を活かしたチームワークをととても大切に日々ケアに取り組んでいます。

北部病院からのお知らせ

1 循環器内科に弁膜症外来を開設しました

高齢化が進み、心臓弁膜症を有する患者さんが増えてきています。近年、医療の進歩に伴い弁膜症の治療も従来からの薬物治療、外科的治療に加え、経カテーテル的治療も適応となり、十分な治療効果を有することが分かってきています。循環器内科では、このような複数の治療法から最適な治療法をご提案するため、心臓弁膜症または弁膜症の疑いがある方を対象とした専門的な診療を行う「弁膜症外来」を開設いたしました。

当院では循環器内科と心臓血管外科の連携・協力がスムーズであり、心臓弁膜症への検査・最適な治療をご提案することを目標にしておりますので、心臓弁膜症または弁膜症の疑いがある患者さんをご紹介いただければ幸いです。

当院は昭和大学関連病院であり、かつ神奈川県下の主要大学病院との連携も行っておりますので、より高度な治療が必要な場合は昭和大学病院を含む適切な施設への迅速な紹介も可能です。

外 来 日：毎月第2水曜日 午後

対 象 疾 患：心臓弁膜症、心臓弁膜症疑い（心雑音などでも可）

完全予約制：診療情報提供書（紹介状）が必須となります

2 次回の地域医療連携フォーラムは来年2月22日（木）に開催します

2023年11月22日（水）にオンラインで開催しました第28回地域医療連携フォーラムには、院内外から74名の参加がありました。ありがとうございました。

第29回地域医療連携フォーラムは、2024年2月22日（木）19時15分から新横浜グレイスホテルで、女性骨盤底センター及び泌尿器科医師による講演、懇親会を予定しています。なお、新型コロナウイルス感染症などの状況によっては、オンライン開催に変更する場合があります。開催方法や申し込み方法、演題は1月下旬ごろ当院HP及びチラシにてご案内いたします。ご参加のほどお願い申し上げます。

3 病診連携研修会の予定

開催日時	名称・内容	場所	担当医師等・連絡先
2024年2月9日（金） 19:30～21:00	第56回都筑区小児科医 会と昭和大学横浜市北部 病院との連携勉強会	北部病院 西棟4階講堂	こどもセンター 渡邊常樹 tsuneki5@med.showa-u. ac.jp
2024年2月16日（金） 19:30～21:15	昭和大学横浜市北部地区 眼科病診連携の会 （医局紹介、症例発表等）	北部病院 西棟4階講堂	眼科 横山 k-yokoyama@med. showa-u.ac.jp
2024年3月9日（土）、 10日（日）	国際消化器内視鏡セミ ナー（YOKOHAMA LIVE 2024）	新横浜プリンスホテル	消化器センター 小川・神山 045-949-7265 ホームページ（プライベート サイト）参照

4 月曜日祝日（国民の祝日にあたる月曜日）の対応

日付	曜日	休日名	対応
1月 8日 月	月	成人の日	※救急対応を原則とし、救急、初診、紹介、並びに通院中 の方で状態変化による臨時再診をお受けします。 ※紹介状がない場合は選定療養費（8,800円）が別途発 生いたします。
2月 12日 月	月	建国記念の日 振替休日	